

(別記様式第15号)

令和3年度みんなで支える里山整備事業進捗状況報告書

事業 主体名	信州上小森林組合 実務者(説明者)氏名： 山崎 恭平
-----------	-------------------------------

No.	事業項目	事業名
9-2	みんなの暮らしを守る森林づくり事業	みんなで支える里山整備事業 (防災・減災のための森林整備)
事業費 13,763 千円 (うち森林づくり県民税： 12,386.7 千円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

比較的手入れの行いやすい箇所は進んできていたが、災害リスク等が高く、今まで施業の行われてこなかった山林の手入れ不足が課題。

(2) 本事業の目的

間伐を面的に推進することにより、集落周辺の里山等の森林の有する多面的機能の回復・維持・促進を図り、森林環境の保全に資するものとされている。

当実施場所では、森林の有する多面的機能の回復・維持・増進を図りながら効率的な森林資源の活用を行う。

事業内容

(1) 実施場所 東御市、上田市

(2) 対象者 森林所有者

(3) 実施方法 搬出間伐、森林作業道開設

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (3年度～3年度) R3年度 搬出間伐 11.07ha 森林作業道開設 2,760m

②令和3年度進捗状況

B



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

不用木の除去、不良木の淘汰により今まで手入れ不足の林内へ日の光が当たり、残された良質な樹木の成長の促進、土壌の回復に繋がり、災害に強い森林を作れる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

伐り出した木材を販売し、木材収入を得ることにより、森林所有者への負担軽減や森林整備への意欲増進に繋がり、今後の森林整備へと繋がる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

搬出間伐施業により、うっそうとした林内に陽の光が入り、藪やツルが整備されるため、視覚的な部分はもちろんのこと、山地災害の低減、水源涵養機能の増進および地球温暖化防止等の役割に繋がるといった理解も深まっているかと考えられる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

(2) 課題

災害リスクが高い箇所での作業となるため安全対策の徹底が課題となる。

(3) 次年度以降の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

事業の制度等に対する要望等

-
-
-